

日本気象学会第6回特別セミナー（若手会冬の学校）の報告

若手会冬の学校実行委員会*

1995年2月24日(金)～26日(日)の3日間、北海道紋別市の林業研修宿泊センター(からまつ荘)にて「若手会冬の学校」を開催した。若手会の学校としては初めての北海道開催及び冬季開催であった。参加者は全国から68名であった。以下はその報告である。

1. 開催までの経緯

第5回夏の学校(主幹：名古屋大学、開催：1994年)において次回の夏の学校の幹事校として北海道大学が選出された。当初は従来通り夏の学校として今年の夏に開催する予定であったが、次第に冬季開催の気運が高まり、昨年11月に冬の学校実行委員会を組織して本格的に検討を始めた。急な企画にもかかわらず学会事務局及び講演企画委員会においても直ちに対応して頂き、また開催地の選定にあたっては流水の街として知られる紋別市が全面的に後援して下さるとのことで当地に決定した。

開催内容についても、積極的に参加して頂くことを意識して、これまでの講演会中心の形式を改め、討論会中心の形式を採ることにした。個人の研究を発表して頂く場としては従来的一般講演に代わり、ポスターセッションを新設した。また、討論会においては「気象学の“分野”をつなぐものは何か」というテーマを設定した。

2. 日程及び開催内容

初日は昼下がりから受付を開始し、16時より開校式、続いて所属機関紹介が行われた。心配した交通機関の遅れも少なく夕刻までにはほとんどの参加者が集まっ

た。所属機関紹介は例年通り趣向を凝らしたものが多く大いに盛り上がりを見せた。

夕食後にポスターセッションが行われた。発表は10組(発表者とタイトルは省略)で、概要紹介の後、約1時間のコアタイムを取った。各所で活発な議論が開かれた模様で、続いて同会場で行われた懇親会においても一部では議論が継続されていた。ポスターは最終日の朝まで掲示されていたので、空き時間に議論する光景もみられた。また気象台グループによるリアルタイムの天気図解説は開催中4回行われ、特に好評であった。

懇親会は例年通りの盛り上がりを見せ深夜まで交流が続いた。

2日目の午前中には招待講演が以下の演題にて行われた。

・松野太郎(北海道大学地球環境科学研究科)

「気候変動と海洋のダイナミクス」

・竹内謙介(北海道大学低温科学研究所)

「気象学者のための海洋観測入門」

松野先生は二酸化炭素の循環をキーワードに、竹内先生は観測をキーワードに、いずれも現在の大気及び海洋研究の問題点を含んだ興味深い話題であり、質疑応答も活発であった。

2日目の午後からは討論会に入った。初めに、少人数によるグループ討論会が行われた。各グループのコーディネーターと討論会のテーマは以下の通りである。

・榎本浩之(北見工業大学工学部)

「雪氷圏と気象について」

・沖 大幹(東京大学生産技術研究所)

「気象学とその周辺分野において、価値のある研究とは何だろうか？」

・酒井 敏(京都大学総合人間学部)

「雑談：『Z星人と気象学』」

・三枝信子(筑波大学生物科学系)

「気象学とその周辺分野(植物生態と気象について)」

* 本天明治, 中林宏典, 牛山朋来, 北海道大学低温科学研究所。

立花義裕, 東海大学文明研究所。

勝俣昌己, 松岡静樹, 岩田総司, 乙津孝之, 島村泰介,

中井安未, 長石唯人, 山田広幸, 北海道大学理学部。

鈴木史浩, 北海道大学地球環境科学研究科。

・沼口 敦（国立環境研究所）

「モデルは地球を救うか？」

討論内容については省略するが、各グループとも活発な討論が交わされ大変盛り上がった模様である。設定の3時間を越えるグループもあり、急きょ時間を延長するなど、嬉しい誤算もあった。討論会終了後、グループ討論会内容報告会が行われ、翌日のパネルディスカッション（総合討論）の伏線となった。

2日目の懇親会も深夜まで大いに盛り上がった。紋別市より“かに”の差し入れもあり、これには参加者一同大喜びであった。また一部では勉強会が始まった。討論会のテーマについて盛んに議論されたグループもあった。

最終日の午前には冬の学校を締めくくるパネルディスカッションが行われた。座長は玉川一郎さん（名古屋大学大気水圏科学研究所）にお願いし、コーディネーターの皆さんをパネラーとして、「気象学の“分野”をつなぐものは何か」について討論が行われた。分野に対する認識の違い、分野間のコミュニティーの違いや壁の存在、分野をどのようにつなぐか、などの議論が活発に交わされた。まとめでは、研究者は1人1分野を持つべき、分野とはそれぞれの研究目的についてくるもの、そして他人に理解されるように説明すること

が大事である、などの意見が出て締めくくられた。

パネルディスカッションの終了後に反省会が行われ、次回の幹事を東京大学に依頼して、冬の学校は閉校した。

3. おわりに

今回の冬の学校開催にあたっては、気象学会事務局及び講演企画委員会には大変お世話になり、また従来夏の学校と同様に補助金も戴くことが出来ました。また紋別市には後援を快く引き受けて頂き、運営においてありとあらゆる面をサポートして頂きました。ここに記して感謝の意を表します。

なお期間中、紋別沿岸はびっしり流水に覆われておりました。また天候に恵まれたのも幸いなことでした。

最後になりますが、実行委員会では今回の冬の学校の実施報告書を別途作成しております。より詳しい内容をお知りになりたい方には配布致しますので、下記までご連絡下さい。

〒060 北海道札幌市北区北19条西8丁目

北海道大学低温科学研究所

本田 明治

TEL: 011-706-5479 FAX: 011-706-7142

E-MAIL: meiji@clim.lowtem.hokudai.ac.jp

シンポジウム「北極域の雪氷と大気」のお知らせ

極域研究連絡会

日時：10月19日(木) 9:00~13:00

場所：大阪市中央区大手前4-1-76

合同庁舎4号館(大阪管区気象台のあるビル)

講堂(4階)

地下鉄谷町線または中央線、谷町4丁目下車
すぐ

世話人：山崎孝治(北大)、和田誠(極地研)、

小西啓之(大阪教育大)

(詳細は大会会場掲示板参照)